

凍える鏡

2008(平成20)年6月11日鑑賞(宣伝用DVD鑑賞)

★★★



監督・脚本・編集＝大嶋拓／出演＝田中圭／富樫真¹³¹³／渡辺美佐子(「凍える鏡」製作事務所(TAC、ワコー、エクラアニマル、シネマポルト、AZ) 配給／2007年日本映画／100分)

……孤独で心を病んだ若者による凶悪な犯罪が増加するニッポン国改善の処方箋は……？ この映画はその提示はないが、ひと組の母娘と1人の若者を通して、冷酷な「凍える鏡」を私たちの前に問題提起！ さて、ここで描かれる「凍える鏡」とは……？ 母親からの「無償の愛」など、現代人には夢のまた夢……？

第3章

傑作・佳作がいっぱい！

ここにも孤独で心を病んだ若者が……？

2006年に起きた東京渋谷の妹殺し事件で懲役7年の実刑判決を受けた武藤勇貴被告や2008年6月に秋葉原で起きた通り魔事件の加藤智大容疑者など、最近のニッポンは心を病んだ孤独な若者による凶悪な事件が次々と起きている。『凍える鏡』が描く主人公岡野瞬(田中圭)は絵の才能を持っているらしいから、何のとりえもない平凡な「その他大勢」の若者よりは恵まれているはず。しかし、いくら本人がその才能を自覚していても、世間がそれを認めてくれなければ、逆にその不平不満は普通の若者より大きくなるかも。この映画では、そんな主人公瞬が殺人事件を起こすわけではないが、彼の孤独と病んだ心は武藤被告や加藤容疑者らと全く同じ……？

こんな母娘関係も

吉永小百合の100本目の記念作品は『北の零年』(05年)だったが、超ベテラン女優渡辺美佐子の記念すべき100本目の映画がコレ。彼女が演ずるのは、信州の山荘に住み、時々仕事で東京に出かけてくるというある意味で理想的な生活をしている童話作家の矢崎香澄。他方、1度は結婚したものの、仕事を優先して離婚したため、36歳となった今は臨床心理士として自立することを唯一の目標として(?) 目指しているの

が、香澄の一人娘の由里子（富樫真）。この母娘関係も一見穏やかだが、一皮むいてみると、さまざまな確執とバトルが……。

瞬が描く絵は？ 瞬の心の奥には？

東京に出て、子供たちに絵本を見せながら童話を語り終えた香澄が、ふと目にとめたのが、路上で絵を売っている瞬が描いた1枚の絵。香澄が紹介した雑誌社の責任者の言葉によると、それは「荒っぽいが、たしかに素質はある」「しかし、基礎をしっかり訓練しなければ……」というレベルらしい。香澄の力によってせっかくそんな場に臨んだのに、瞬は少しでも自分の作品にケチをつけられたことが気に入らないらしく、プイと席を立ってしまったから今ドキの若者は始末が悪い。

瞬がこんなひねくれた性格になったのは、親の育て方に問題があることは明らかだが、母親のことを決してしゃべろうとしない瞬と母親との確執とは……？ 映画のラスト近くになるとやっと、瞬が幼児期に受けた母親からの虐待の真相が明らかになるからお楽しみに……。そんな瞬が今さかんに描いているのは、団鬼六の世界を彷彿させる、縛られた女の絵。そんな絵ばかり描いている瞬の心の奥には、一体何が住んでいるのだろうか……？

香澄が瞬をかわいがったのはなぜ……？

瞬の絵を買ってくれた香澄が、再び瞬の前に姿を見せたのは、自殺してしまった香澄の友人の部屋の後片づけのアルバイトを瞬に頼むため。その作業を続ける中で、瞬の才能と心の病を読みとった香澄は、瞬を自分の童話の挿絵描きとして育てようと決めたよう。瞬が意外と素直に香澄の言うとおりに従っているのは、瞬にとって香澄の中に幼い頃の母親とは全く違う理想的な母親の姿を見たため……？

しかし、そんな香澄の瞬に対する肩入れ(?)を気に入らないのが由里子。信州の山荘で静かに過ごしていた2人を訪れてきた由里子の前で、香澄が突然「瞬を養子にする！」と宣言したことによって、3人の関係は大きく転換していくことに……。

養子宣言から生まれた、由里子と瞬の確執は？

唐突な香澄による瞬の養子とり宣言に大きく反発したのが、実の娘である由里子。「それって、自分の老後を瞬に見てもらいたいだけじゃないの！」との指摘はある面

では正当。しかし、そんな香澄と由里子の確執をよそに、瞬は「どっちでもいいよ」と至っていい加減……？

そんな中、山荘の近くでは数件の放火事件が起きていたが、ひょっとしてそれは夜中にこっそり外に出ていっている瞬の仕業……？

他方、香澄の紹介によって由里子のカウンセリングを受けていた瞬が由里子のクリニックを飛び出していったのは、母親への想いを爆発させた繊細な瞬の気持ちを由里子が十分受け止めることができなかつたため。しかし、山荘で一緒に生活している今は、母親の香澄から残酷な養子とり発言を聞かされた由里子の方から、瞬に対して心を開いていくことに。その結果、香澄が目撃することになったのは、何と由里子と瞬が抱き合っている姿だったから大変……。

瞬と母親との確執、瞬と香澄の奇妙な絆、香澄と由里子間の確執、そして今生まれた瞬と由里子との愛憎、そんな三者三様の心の動きは、この後どんな展開を……？

タイトルの意味は？

『凍える鏡』というタイトルは国語的には理解できても、その真の意味は容易に理解できないはず。しかして、「鏡」の心理学的解釈とは……？ それはチラシを丸写しすると、「子供は親という「鏡」に自分を映し出すことで、おのれの行動の意味を知り、自己を育てていく。通常は母親がその役割を担う事が多い」（「自己心理学」を提唱したH・コフォートの理論から）ということ。なるほど、そういうことか。

すると「凍える鏡」とは、子供を映し出せない母親＝反応できない母親＝氷のような母親という意味だから、メチャ怖い。スクリーン上に登場しない瞬の母親は、まさに「凍える鏡」だったらしいが、ひょっとして瞬には観音サマのように見える香澄も、由里子にとっては「凍える鏡」なのかも……？ そう考えると、この映画のタイトルはメチャ重いし、そこに描かれる香澄と由里子の関係、香澄と瞬の関係もメチャ重い。そして、そんな凍える鏡が増えている今のニッポンだからこそ、冒頭で述べた妹殺し事件や通り魔事件が次々と起きているのかも……？

ところで、それを改善するための処方箋は……？ 少なくとも、この映画はそれを示してくれず、ただ観客にそんな冷酷な現実を突きつけるだけ。そこが、私には少し辛いのだが……。

2008(平成20)年6月16日記